

<議事録>

令和2年度第2回
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 令和2年10月16日(金曜日)
午後3時00分～午後4時30分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

令和2年度 第2回いじめ防止対策委員会

<議事録>

令和2年10月16日(金)

我孫子市教育委員会大会議室

15:00～

1 開会(阪路)

*これより、令和2年度第2回我孫子市いじめ防止対策委員会を始めます。

2 会議の公開について(阪路)

3 いじめ防止対策に関する報告および協議

<議長>: コロナ禍の影響で学校生活のスタートが遅れたことにより、第1回いじめアンケートも実施時期が遅れましたが、今回はアンケートの結果を中心に報告します。またアンケート後も新たないじめが無いように取り組んでいきたいと思えます。まず始めに事務局から議事の1～5項目までお願いします。

(1) 第1回いじめについてのアンケート集計結果・「その他」の記述一覧(阪路)

■はじめの質問:「困っていること、心配なことはありますか」

小学校では295人(4.9%)、中学校では56人(1.9%)が「ある(記載あり)」と回答した。

■問1「あなたは今いじめられていますか」(認知件数)

いじめの認知件数は、小学校256件(6,001人回答)、中学校13件(2,968人回答)で、認知率にすると小学校で約4.3%(昨年度6月比-5.0%、11月比-2.8%)、中学校で約0.4%(昨年度6月比-1.1%、11月比-0.5%)であった。小学校、中学校ともに、近年で一番少ない認知件数である。

■問2「それはどのくらい続いていますか」、問3「どんないじめですか」

小学校では、いじめの期間や内容は、例年とほぼ同様の割合となっている。中学校では、いじめの期間については、「1ヶ月以上」と回答した割合が38.5%と昨年度の同時期に比べて低い(昨年度6月比-12.6%)。また、いじめの内容では、「無視」の割合が例年10%前後であったが26.1%と高くなっている。一方、「なぐるけるなどの暴力を受けた」は4.3%にとどまり、減少している(昨年度6月比-3.4%、11月比-9.4%)。

■問4「場所はどこですか」

小学校では、「その他」と回答した割合が33.1%と高くなっている(昨年度6月比+10.3%、11月比+11.8%)。中学校では、「LINEなどのSNSやメール」が0%(昨年度6月比-7.2%、11月比-11.9%)と減少した。

■問5「誰にいじめられたか」

小学校、中学校ともに似た傾向が出ており、「学年の友達」が小学校27.8%(昨年度6月比+7.7%、11月比+8.4%)、中学校33.3%(昨年度6月比+17.5%、11月比+14.9%)と高くなっており、同様に「その他」の割合も、小学校7.0%(昨年度6月比+3.2%、11月比+3.9%)、中学校20.0%(昨年度6月比+7.7%、11月比+12.1%)と昨年度と比べて高くなっている。

■問6 「誰に相談しましたか」

小中学校ともに「親」との回答が、小学校では37.7%(昨年度6月比+6.5%、11月比+9.1%)、中学校では41.2%(昨年度6月比+15.8%、11月比+20.4%)と最も高い。

■問7 「だれかをいじめていますか」

「はい」と回答したのは小学校37件(昨年度6月115件、11月67件)、中学校1件(昨年度6月3件、11月2件)と大きく減少している。

■問8 「それはどんないじめですか」

小学校では「手紙やLINEなどのSNSやメールでいやなことを書く」が0件(昨年度6月39件、11月2件)と減少し、「嫌なことを言う」が割合で見ると45.2%と最も高くなっている(昨年度6月比+15.8%、11月比+6.6%)。中学校については、「嫌なことを言う」が1件であった。

■問9 「誰をいじているのですか」、問10 「いじめた理由はなんですか」

中学校では、大きな傾向の変化はみられなかったが、小学校でのいじめの対象は、「上級生」が2.6%と低くなり(昨年度6月比-7.2%、11月比-7.5%)、その反面、「その他」が10.5%と高くなっている(昨年度6月比+1.5%、11月比+6.7%)。また、小学校でのいじめた理由については、昨年度高かった「相手が嫌がることをするから」が15.6%と低くなっている(昨年度6月比-3.0%、11月比-14.6%)。

■問11 「今いじめられている子がいますか」、問12 「あなたはどのようにしていますか」

「今いじめられている子がいますか」については、小中学校ともに減少し、小学校が210件(昨年度6月503件、11月431件)、中学校が13件(昨年度6月58件、11月52件)であった。また、「あなたはどのようにしていますか」については、小中学校ともに「その他」の割合が約3~8%増加したが、中学校についてはそれ以外の傾向の変化はみられなかった。一方、小学校では、「先生に伝えている」の割合が、昨年度16%前後で推移していたのに対し、今年度は9.3%と低い値となった。

<その他の記述について(選択肢にないものを中心に)>

●はじめに「困っていること、心配なことはありますか」

小学校では、入学後あるいは進級後の新しいクラスでの友人関係や感染に関する不安や心配が多い。中学校では、学習の遅れや体調面を心配する記載が多い。

●問3 「どんないじめか」

小学校では、「きつい態度をとられる、荷物を持たされる、にらまれる、名前で遊ばれる」等の記述がみられた。中学校では、「置いてきぼりにされる、避けられる」等の記載がみられた。

●問4 「場所はどこか」

小学校では、公園・学童・習い事などの放課後に関わる場所での訴えが多い。中学校では、学校内が多い。また、小学校、中学校ともにネット上やゲーム内といった記載もみられた。

●問5 「誰にいじめられたか」 小学校では、学童・家族・兄弟といった記載があった。

●問6 「誰に相談したか」 小学校では、家族との記載があった。

●問12 「いじめられている子に対して、どうしているか」

小学校では、「やり返して、どれぐらい嫌か教える」や「(加害者に)怒られそうで言えない、一緒にされるから何も言えない」との記載があった。中学校では、「友達と一緒にいじている人と距離をとっている」の記載があった。

*「学習に関する記述」に関しては、結果の速報値について校長会を通じて各学校に周知し、学習が遅れている児童生徒の支援や授業進度等の見直しを伝えた。

(2) いじめについてのアンケートによる認知の推移

今回のアンケート結果認知の推移では、「実施時期別」と「小中学校別」に載せてある。コロナ禍の影響もあり、小学校・中学校とも大きく減少している。

(3) 第1回いじめについてのアンケート調査後の取組み状況調査結果および考察

<追跡調査結果について>

今回のアンケートで「いじめられている」と回答した小学生256名いましたが、10月9日現在で未解消が1件だった。中学生は13名の回答のうち未解消は1件だった。

<アンケートを基にしたの考察>

今回のアンケート結果は、例年の傾向を示さない項目がみられるが、これは、臨時休校によって学校の再開が6月であったことと、それに伴いアンケートの実施時期に差異が生じたことによる影響が大きい。

今年度の認知件数の減少については、大きく3つの原因が考えられる。1つ目は、1学期のスタートから間もない時期に調査を行ったことである。これは、新型コロナウイルス感染症への差別偏見によるいじめ防止の徹底と、臨時休校による不安や悩みの早期解消のためであったが、児童生徒同士の間関係・友人関係がまだ構築されていない時期であり、いじめとして浮かび上がる前段階であったのではないかと考える。2つ目は、子ども達を取り巻く環境の変化である。子ども達は、感染予防の取組や新しい生活様式に順応することが求められた。このような、慣れない環境での生活や、感染症への不安によって、慣行の中で行われていたいじめへの衝動が抑えられたのではないかと考える。3つ目は、各学校において、いじめアンケート実施よりも前に、教育相談や独自アンケートを積極的に実施し、対策を講じたことである。例年、多くの学校は年度最初の調査が6月のいじめアンケートの学校が多かったが、今年度は実施前に認知・対処ができたのではないかと考える。

学年ごとの認知件数では、例年と比べ、小学校高学年の割合が高くなっている。今後、十分注意して対応する必要がある。

いじめの期間について、中学校では、1ヶ月以上いじめを受けている人数が減少し、割合も例年と比べ低いため、昨年度からの継続案件がより解消されていると判断できる。上記したように、各校での対策も解消に効果を上げていると思われる。

いじめの内容について、新型コロナウイルス感染症に係る差別・偏見からのいじめは確認できなかった。また、小学校、中学校ともに「無視」が多くみられるのは、密接場面の制限などにより、身体的接触や会話の機会の減少が要因と考えられる。このような様態は、今後更に増えていくと予想される。また、教師側からも見えにくいので、長期化の恐れもある。適宜、いじめの定義の周知や差別・偏見に関する指導を行い、子ども達が発するサインを見逃さないよう、職員間での情報を共有していく姿勢が大切である。

いじめのあった場所では、小学校では、管理された学校内よりも気持ちの緩みが出やすい放課

後の生活の中で多くみられる。また、中学校でも少数ながらネット上やゲーム内という記述があり、教師の見えないところで発生するという危険性を認識する必要がある。しかし、中学校では、スマートフォン・携帯電話の所持率が8割を超えているなか、「LINE」などのSNSやメールでのいじめの発生が0件であった。悪意のある発信や書き込み等の火種の多くは、学校生活での行動を対象とすることから、臨時休校の影響が出ていると考えられる。

いじめの加害者は、「学年の友達」「学童・家族・兄弟」が多く、「上級生」「部活の友達」などが少なかったが、これも臨時休校や新しい生活様式等の影響で、行動範囲に制限があったためであると予想できる。しかし、家庭や家族という記述には十分注意しながら、慎重に聞き取り等を行う必要がある。教員は、状況に応じて関係機関につなぐ等の選択肢を常に意識しなければならない。相談相手は、小学校、中学校ともに、昨年度多かった教員が減少し、親が最も多かったが、これについても臨時休校の影響によるものと考えられる。今後は、教員への相談が増えると思われるが、いじめの被害者、加害者だけでなく、不安や悩みを受け止め、励ましたり支えたりする姿勢で向き合っていく必要がある。

最後に、「困っていること、心配なことはありますか」について、小学校では、友人関係に関することが多く、中学校では、学習の遅れや体調面を心配する記述が多かった。目標を見いだせなかったり、心身ともに不安定になったりする子ども達が増えてくることが想定される。教員は、そんな子ども達に寄り添い、顔を上げて前へ一歩踏み出せるような、指導や支援を進めていくことが必要である。

(4) いじめ防止に向けた各学校における具体的な取組 (第1回いじめアンケートを受けて)

1. 授業や学級活動での取組

- 帰りの会の時間に、担任に伝えたいことはないかを聞くようにした。
- 学級レクを企画して、子ども達のコミュニケーションを増やすような取組を行った。
- クラス全体でいじめ問題を取りあげることで、悩みや不安を相談しやすい雰囲気作りを心がけた。

2. 学年集会・全校集会(全校朝礼)での取組

- 学年レクを行い、明るい学年の雰囲気を作るようにした。
- 「言われたら嫌なこと」について学年集会で確認した。
- いじめを受けている児童の意向に沿って、個別と全体とのバランスをとりながらいじめ防止について指導を行った。
- 学年集会を行い、「いじめは許されない行為」ということを伝えた。
- 学年集会で、「嫌なことを言う側と言われる側のとらえ方の違い」について指導を行った。
- SNSの使い方や危険性について全体で指導した。

3. 教育相談・個人面談での取組

- 被害者と加害者、双方と面談を行い、解決に向けての話し合いを持った。
- 教員が間に入り、お互いに気持ちを伝え合う場を設けた。

- 被害者の思いを加害者に伝え、謝罪する場を設けた。
- 学年の児童全員と個人面談をする時間を設けて、不安や悩みを打ち明けられる機会を設けた。
- 被害者には、定期的に面談をして、いじめが続いているかどうかなどを聞いている。
- 加害者に対して、相手が嫌だと思ったらいじめであるということを伝えた。
- （いじめの火種となった）オンラインゲームについて、ルールを守ることなど、安全に楽しく遊ぶように指導した。
- 家庭訪問や電話連絡を行い、いじめの状況について保護者との連絡を密にした。

4. 教職員の取組

- 職員会議等でいじめの事案について共通理解を図り、組織的な対応をするようにしている。
- 各担任が、それぞれの学級の引き継ぎを十分に行い、児童生徒の人間関係をしっかりと把握した。
- 学年職員や生徒指導部会で会議を設け、対応について適宜話し合いを行った。
- 部活動顧問とも連携し、部活動内での人間関係やトラブルの構図を調査した。
- スクールカウンセラーと情報を共有し、定期的な面談を行っている。
- 被害児童や加害児童の側に職員が付き、目を離さないようにしている。

(5) 第1回インターネットや携帯電話についての調査結果

- ・自分のスマートフォンや携帯をもっていますかという質問については、小学校で半数以上、中学校では8割以上が自分のスマートフォンや携帯を持っています。その使用については小中学校ともに、電話・メールやゲーム、インターネットでの検索が多いが、LINEなどのSNSでの使用もある。使用時間については長くなっている傾向である。

4 意見交換

○議 長 : 今年は例年とは違う状況であり、家庭にいる時間の長さが増え、その影響がアンケートの結果に出ているのではないかと思う。社会福祉課の「ダメ！コロナいじめ」のポスターについては、学校でも掲示をよろしくお願ひしたい。また、「熱がある」⇒「コロナじゃない？」と口に出してしまう⇒「避ける」などの行為はいじめになることをしっかり指導していきたいと考えている。

「第1回いじめアンケート集計結果」や「アンケート調査後の取組み状況および考察について」等の報告があったが、教師が児童生徒をよく観察し、いじめを発見し対応するとともに、いじめアンケートやQ・U検査などで発見・把握し、いじめがないように対応していければと考えている。

*村田委員 : コロナ感染の問題は、色々な制限が発生し、子どもたちの生活に影響があるのではないかと。まず質問したいが、[どないいじめか]で「無視が多くなった」とありましたが、コロナ関連で無視するいじめが増えたということはあるか？

次の質問として、「密接場面の制限」についてだが、教室内生活で休み時間の移動制限を設けたり、放課後すぐに下校させたりするなどがあるか？

- *阪路主事：アンケートの回答では、今まで仲良しだったが、ちょっとしたトラブルからの無視や口喧嘩からの無視で、今までと同様でコロナ関連での増加とはとらえていない。
また、マスク越しでの会話等で、表情を受けとれず、勘違いからのものも見られた。
- *大島委員：「活動の制限」は、新たなものは設定していない。遊ぶなどは言っていないが、「近い距離はやめよう」と促している。今、給食の時間では黙々と食べ、食器の音だけがするような状態である。
- *鈴木委員：6月22日の登校再開後、子どもの意識項目を設定して、1～2週間取り組むことをしていた。例えば「密にならないような遊ぶ内容の指示」や「手洗いとマスクの徹底」など意識して生活させた。
- *熱田委員：コロナ感染を意識しすぎているのではないかと思う。家でも「〇〇はやるな」という制限が増え、時には子にあたる行為等から、子どもへの悪影響（いじめやいじめられ）が見られるのではないか…。親の精神的ダメージで、子どもへの虐待行為が生まれたりしていないか。一つの学校で出てきた問題を市内で共有することが必要だと考える。
- *阿部委員：今出された懸案事項は市としても持っている。共有のため、学校へ報告依頼をしたが、ここまでは心配していたほど大きな問題はなかった。
- *佐藤委員：アンケートの「その他の記述」で、「コロナ感染が心配だ」とあるが登校させない家庭はあるのか？また「やり返してどれくらい嫌か教える」「言えない」があるが、正しいデータを取るためにアンケートに正しく答えられるように安心感を持たせて欲しい。もう一つ、9月に芸能人の自殺があったが、学校での動揺があったか？
- 議 長：コロナ関係での欠席はゼロではない。「やり返す」については、いじめについての正しい理解が十分ではないので再確認したい。また「芸能人の自殺」については、昔、近い年代の事案では、後追い自殺があったが、現実的に動揺もほぼない状況である。
- *三澤委員：社会福祉課からの情報では自殺者が増加している。市内では元年に11名。2年8月末で9名である。様々な原因があり、自死にいたっている。虐待やいじめがきっかけで起こることも考えられ、注視していきたい。
- 議 長：今後は経済的要因での自死も心配されると考えている。
- *紺野委員：コロナと共存生活が当たり前になってきた時の動向について。まず「LINE」が荒れない状況であり、仲間での直接の関係性が薄れているせいなのか。また、知らない子からの遊びの誘いに対してどう対処していいのか。「皆で家の中で遊びたい」という状況に困っている。別な話題だが、我孫子市では、小中ともに運動会が開催されて、子どもたちは喜んでた。
- *竹内委員：教育委員会と学校はよく連携していて良いと思う。自分もコロナ禍では、働き方改革を考えるようになった。世の中でもいろいろ考えられ、実践されているが、そんな中で、新しいいじめの姿が生まれてくるのではないだろうか。
- 議 長：ICT教育で、タブレットを「一人一台に」と考えていたが今まで予算の確保が難しかった。しかし、今年になって補助金等の活用で予算が増額され、今後、急な動きになるのでスムーズにいかない場面がでるのではと留意している。
残念だったことは、部活動の葛南大会等がなくなってしまったこと。そんな中で「せめ

て市内大会をやろう」と子どもたちのことを思う先生方の熱意で実施された。子どもたちは終了後に泣く姿があり、「いい感動」になったと思う。

*大島委員：学校では普通の生活が戻りつつあると思う。いじめはこれからいろいろな形で出てくるのではと考えており、適切に対応していきたい。

子どもたちの様子として学校でのストレスが少ない分、家庭での諸問題から生まれる子どもの心の不安定さがある。学校では感染者が出たときに、「感染した人は悪くない」ということを集会や道徳で取り上げ、心を耕している。

少し前に、事情がありマスクを外せない生徒がいたが、コロナ禍では目立たなくなった。今後はマスクを外せない子が多く出てくるのではないだろうか。

*鈴木委員：学校が再開後は職員が早く出勤し対応した。ただ、再開後は「密」の状況が生まれ、ストレスが生まれてくる。学校としては子どもが死にいたらないために全力で対応したい。「死なない」という教育を組み込んでいきたい。また子ども相談課や児童相談所など他の機関との連携をとり、いじめ問題、虐待問題、家庭内問題などから不登校にならないよう取り組んでいきたい。

*三澤委員：生活保護の問題やアパートの家賃問題など扱っているが、他市では生活保護申請が3倍（我孫子市は横ばい）と増加している。市内では家賃の補助申請が増加していて、親の経済的困窮が心配され、いじめの根本的な要素も考えていく必要がある。市と学校の連携を更に深めていきたい。

*阿部委員：「いじめの加害者が家庭や家族」という記述に注視したい。どのように対応していくのが良いか考えていきたい。

○議長：様々な手段で、いじめの芽をつぶすことに取り組みたい。
以上で意見交換を終わりにします。

5 その他

6 諸連絡（阪路）

- ・次回 第3回いじめ防止対策委員会 2月18日（木）
15:00～16:30 教育委員会大会議室

7 閉会